

GREEN Rader

全農長野県本部情報 グリーンレーダー

2026
10
Vol.569



重点事業方針

A-Policy

畜産酪農部の取り組み

A-Reports

- | | | | |
|---|---|------------------------------------|----|
| ・長野県産秋果実のトップセールスを開催 | 2 | ・ファミリーマートで信州産和ナシを使ったアイスバーを発売 | 9 |
| ・第56回 信州フラワーショー サマーセレクション | 3 | ・公式SNSを拡充 X、Instagram、noteで情報発信を強化 | 9 |
| ・令和8年度JA長野県農業機械推進優秀者表彰式を開催 | 4 | ・今月のおすすめレシピ | 10 |
| ・青果物販売管理システム構築・推進委員会 プロジェクト関係者拡大全体会議を開催 | 5 | ・JA全農長野の事業現況 | 10 |
| ・第23回信州アルプス牛共励会開催 | 6 | ・10月のラジオ番組表 | 10 |
| ・宗像大社へ長野県産農産物を奉納 | 6 | ・編集後記 | 10 |
| ・JAながの ブドウ「ナガノパープル」トップセールスを開催 | 7 | | |
| ・東京・豊洲市場でJA長野ハケ岳・JA洗馬合同の野菜トップセールスを開催 | 7 | | |
| ・「組織品目商品研修会」を開催 | 8 | | |



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

畜産酪農部

畜産酪農部の取り組み

J A全農長野畜産酪農部は1部1課・3生産牧場の機能を最大限發揮し、畜産物の補完的な生産により数量確保を図りながら、信州産ブランドの販促強化等、有利販売の仕組みを維持強化し、農家所得の確保により生産基盤の維持が図れるよう、次に掲げる具体策をもって事業に取り組んでいます。また、令和9年度末の松本食肉施設閉鎖に伴う対応および県内畜産業の持続的発展を図るための長野県畜産振興検討会議に参画し今後の消費拡大・ブランド価値向上対策を進めると同時に、販売会社との連携強化による県産食肉流通体制の堅持を目指し、取り組んでいます。

1. 生産基盤維持と販売数量の確保

- (1) 空舎活用による生産基盤の維持およびJ A子会社による肉牛生産基盤拡大
- (2) 長野県中央家畜市場のEBL（牛伝染性リンパ腫）自主検査結果公表による市場活性化
- (3) 自給飼料の確保と乳質改善対策および疾病予防対策

2. 信州産ブランドの販売強化と生産性向上による農業所得の増大

- (4) 県本部奨励施策による生産基盤の維持確保
- (1) 信州産ブランド畜産品の県内外での販売促進強化および信州プレミアム牛肉の輸出拡大に向けた市場・買参人・販売会社との取り組み強化および海外レセプションへの参加
- (2) 信州ポークの安定した供給先の確保および固定販売価格による所得の向上
- (3) 信州産生乳の一元集荷多元販売による集荷コストの見直しおよび関係機関と連携した乳質改善、ポジティブリスト全戸巡回の実施
- (4) 生産性向上巡回の継続実施および販売促進の取り組み強化
- (5) 畜産・酪農情勢についての理解醸成運動の継続的な取り組みおよび効率的なCM放送によるPR活動の強化

3. 県本部生産農場の機能充実と経営の安定

- (1) 三岳牧場／和牛肥育預託頭数、乳用牛預託頭数の確保による施設の有効活用
- (2) ハケ岳牧場／生産性向上による生乳出荷量の確保、搾乳頭数増加による信州産生乳の確保、教育ファームによる酪農理解醸成活動の強化
- (3) SPF豚繁殖センター／販売子豚頭数の確保と優良子豚の産出による県内SPF豚事業の拡大および信州ポーク銘柄豚の生産基盤維持

4. 中信地区における営農指導体制の整備

- (1) 営農技術員の資質向上によるセンター機能強化
- (2) 地域の実情、事業環境の変化に



NaturalProductsEXPO WEST2026による「信州プレミアム牛肉」PR（アメリカ LA アナハイムにて）



ハケ岳牧場ふれあいファームによる食育・理解醸成活動

5. 県内食肉処理施設に関する協議／長野県畜産振興検討会議への参画および荷ふり代替策の検討

- 対応した最適な運営体制の協議と方向付け
- (1) 令和10年4月以降の新たな県産食肉流通体制（代替策）の構築
 - (2) 中長期的な長野県における最適な食肉処理施設のあり方について方向付け
 - (3) 消費拡大・ブランド価値向上に向けた研究会への参画

果実花き課

出荷本格化に向け、長野県産秋果実の トップセールスを開催

ＪＡ全農長野と長野県は９月８日（火）、東京都中央卸売市場大田市場にて長野県産果実のトップセールスを開催しました。「ぶどう三姉妹®」「りんご三兄弟®」をはじめ、これから出荷本格化を迎える長野県産秋果実のPRを行いました。

長野県の阿部守一知事は、挨拶で「長野県はブドウやリンゴ、モモやナシなどの栽培が盛んで、まさにフルーツ王国。生産者は研究熱心で真面目です。生産者が育てたおいしい果物を多くの消費者に届けてほしい」と売り込みました。また、ＪＡ全農長野運営委員会の神農佳人会長は、「今日から長野県産のブドウとリンゴをよろしくお願いします」と市場関係者に呼びかけました。挨拶に続き、「ぶどう三姉妹®」などの長野県産果実のサンプルを市場関係者へ配布し、大勢の市場関係者が次々と手に取り、瞬く間に終了しました。

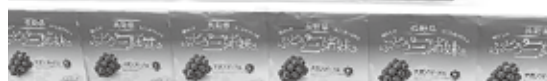
本年度の長野県産果実の生育は順調で、ブドウとリンゴは前年を上回る出荷量を見込んでおり、ＪＡ全農長野の出荷計画は、ブドウが240万ケース／5kg換算（前年比113%）、リンゴが286万ケース／10kg換算（同105%）です。

また、ナガノパープル、シャインマスカット、クイーンルージュ®の三種を「ぶどう三姉妹®」、秋映、シナノスイート、シナノゴールドの三種を「りんご三兄弟®」として販売強化を図っており、消費地での試食宣伝会や販売促進イベント、キャラクターを活用したPRなど、認知度向上に向け活動しています。

今後も引き続きＪＡや関係機関と一体となって、高品質でおいしい果実のPRを行い、ＪＡグループの販売力を高めるとともに、生産基盤の維持拡充に向けても取り組みを進めます。



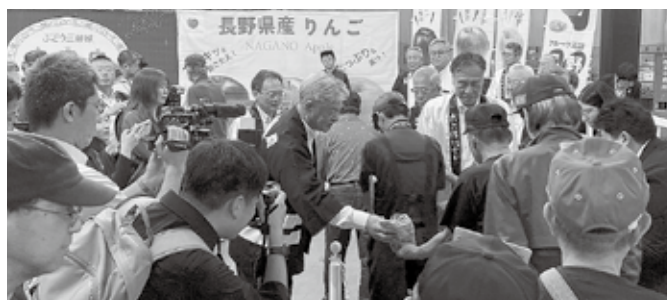
挨拶する全農長野神農会長



会場に展示された果実



SNSの紹介をサンプルとあわせて配布



大好評の果実サンプル配布

（表紙下 左から）ＪＡ全農長野・長谷川孝治県本部長、ＪＡ全農長野運営委員会・眞島実副会長、ＪＡ全農長野運営委員会・神農佳人会長、東京青果㈱・川田光太社長、長野県・阿部守一知事、長野県農政部・根橋幸夫部長

果実花き課

農林水産大臣賞に篠原俊さん（JA信州諏訪）のアルストロメリア ～第56回 信州フラワーショーサマーセレクション～

JA全農長野と全農長野花き専門委員会は9月3日(木)・4日(金)の2日間、長野市のJA長野県ビルアクティーホールで「第56回 信州フラワーショーサマーセレクション」を開催しました。

会場には長野県が生産量日本一を誇るカーネーション、トルコギキョウ、キク類をはじめ、生産振興を進める夏出荷のアルストロメリアなど季節を感じさせる色とりどりの草花が並びました。総出品数は373点に上り、いずれも優れた品質の花々で、猛暑による厳しい栽培環境の中で栽培に取り組む生産者の技術の高さが伺えました。

出品された花きは、長野県野菜花き試験場や市場の担当者で構成された10名の審査員により、開花状態や見た目の美しさのほか市場性等についても審査され、入賞者が決まりました。最高賞の農林水産大臣賞はJA信州諏訪篠原俊さんのアルストロメリア「ライムライト」が選ばれました。(=表紙左上)

また、初日には全農長野花き専門委員会花き青年部および若手生産者のメンバーがフラワーアレンジメントを制作しました。講師を招き様々な形のアレンジに挑戦しながら交流を深めました。

2日目には小学生を対象とした花育教室を開催。県内産切花を使ったアレンジメントを制作してもらいました。若手生産者もアシスタントとして加わり、将来の消費拡大へ向け花の素晴らしさをPRしました。

一般公開では、出品物鑑賞後の予約販売に加え、即売用の花束や青年部制作のアレンジメントの販売を行い、フラワーショーは好評のうちに終了しました。

次回は、2027年1月28日(木)・29日(金)に伊那市のJA南信会館にて信州フラワーショーウィンターセレクションを開催します。ウィンターセレクションではアルストロメリア、アネモネ、花木など長野県の冬の品目が出品される予定です。皆様のご来場をお待ちしています。



フラワーショー会場の様子

第56回 信州フラワーショーサマーセレクション入賞者名簿（敬称略）

		品 目 名	品 種 名	氏 名	J A 名
農林水産大臣賞	1点	アルストロメリア	ライムライト	篠原 俊	信 州 諏 訪
農林水産省農産局長賞	2点	アルストロメリア	ニア	小池 潤	信 州 諏 訪
		スタンダードカーネーション	ブラデリア	阿部 和博	佐 久 浅 間
農林水産省関東農政局長賞	2点	アルストロメリア	パール	半田 航志	信 州 諏 訪
		トルコギキョウ	白八重	宮崎 智樹	信 州 う え だ
全農会長賞	4点	輪ギク	岩の白扇	中村 清一郎	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	ミストラル	有賀 美和	上 伊 那
		トルコギキョウ	ジェームス	藤森 英一	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	ミルクディー	松本 雄一	信 州 諏 訪
長野県知事賞	6点	グラジオラス	夕映	滝沢 圭亮	信 州 う え だ
		アルストロメリア	タニア	中原 睦男	上 伊 那
		ダリア	アルプスミルキー	久保田 直之	み な み 信 州
		アルストロメリア	ミストラル	赤羽 隆芳	上 伊 那
		ワレモコウ	シゲル83	梨元 茂	な が の
		アルストロメリア	ワンダースイート	有限会社信州グリーンサポート	上 伊 那
日本花き卸売市場協会会長賞	3点	ティスパッドマム	シャンパンピンク	山本 一寿	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	ピンクティアラ	五味 宏光	信 州 諏 訪
		ミシマサイコ	ミシマサイコ	青木 和正	グリーン長野
フラワー産業議員連盟会長賞	1点	アルストロメリア	ピノット	古畑 光司	松本ハイランド
長野県農協中央会長賞	6点	新鉄砲ユリ	新鉄砲百合	伊藤 豊	上 伊 那
		アルストロメリア	グリーンワンダー	西角 宗征	信 州 諏 訪
		トルコギキョウ	マキアホホワイト	塩入 敬志	信 州 う え だ
		スタンダードカーネーション	カンナ	星野 仁志	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	リゴレット	三浦 雄一	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	ゴールド	小池 幸康	信 州 諏 訪
全農長野県本部長賞	6点	輪ギク	岩の白扇	三井 静明	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	スクロビーノ	矢野 源彦	上 伊 那
		フウセントウワタ	フィソカルバ	西村 勇	信 州 う え だ
		スタンダードカーネーション	ブリザ	小澤 真一	佐 久 浅 間
		アルストロメリア	ピンクティアラ	松沢 広	上 伊 那
		トルコギキョウ	エレスライトピンク	小宮山 弘之	な が の
長野市長賞	2点	ダリア	オレンジストーン	宮下 敦	み な み 信 州
		アルストロメリア	ゼンブラ	矢沢 権一	信 州 諏 訪
フラワーショー運営委員長賞	6点	グラジオラス	スノードン	山田 武	松本ハイランド
		アルストロメリア	ニア	井上 俊哉	信 州 諏 訪
		セダム	オータムジョイ	徳嶽 信子	グリーン長野
		スプレイギク	バステラロゼ	関 晃	信 州 諏 訪
		アルストロメリア	ジェイド	笠原 賢司	上 伊 那
		アルストロメリア	フロレンティーナ	唐澤 勲	上 伊 那

農業機械課

令和8年度JA長野県農業機械推進優秀者表彰式を開催 ～県内30名のJA農機担当者が受賞～

長野県農協生産資材事業推進協議会農業機械専門部会は8月25日(火)、JA長野県ビルで「令和8年度JA長野県農業機械推進優秀者表彰式」を開催しました。この表彰は、事業計画達成に向けた提案活動強化およびJA農機担当者のモチベーション向上を目的に、令和6年度から実施しているもので、今年度は組合員への積極的な推進活動を展開した成績上位の30名が受賞しました。

受賞者を代表して挨拶したJA上伊那農機伊那センターの千野泰孝さんは、職場の仲間への感謝を述べるとともに、「多様化する組合員ニーズに的確に対応するため、農機担当者としてお客様の『困った』を一つでも多く解決し、地域農業を支える役割を担いたい」と力強く語りました。

今後も農業機械課はJAと連携し、地域農業発展に向けて組合員の農業機械利用を支える取り組みを進めてまいります。



受賞者代表挨拶をする千野さん

令和8年度JA長野県農業機械推進優秀者表彰 受賞者 ●優秀賞 (敬称略)

支部	所 属	氏 名
東 信	JA信州うえだ	宮入 真司
東 信	JA信州うえだ	小島 憲博
東 信	(株)オートパル佐久浅間	畠山 千春
東 信	JA長野ハゲ岳	堀川 章
南 信	JA上伊那	千野 泰孝
南 信	JA上伊那	伊藤 隼人
南 信	JA上伊那	井原 大智
南 信	JA上伊那	伊藤 一博
南 信	JA上伊那	吉澤 健二
中 信	JA信州諏訪	木下 光
中 信	JA大北	茅野 秀俊
中 信	JAあづみ	小林 佑也
中 信	JA大北	丸山 康光
中 信	JA松本ハイランド	宮入 保昭
中 信	JA信州諏訪	岩波 康夫
北 信	JAながの	大沢 強
北 信	JAながの	中澤 建亮
北 信	ジェイエイ・アップル(株)	海野 修
北 信	JAながの	小林 一輝
北 信	JAグリーン長野	井出 徹

●敢闘賞 (敬称略)

支部	所 属	氏 名
東 信	(株)オートパル佐久浅間	福永 喜隆
東 信	JA信州うえだ	丸山 悟史
南 信	JA上伊那	春日 佑仁
南 信	(株)オートパルいいだ	佐藤 拓哉
中 信	JA信州諏訪	牛山 正幸
中 信	JAあづみ	高山 暢宏
中 信	JA信州諏訪	小尾 英夫
北 信	JAながの	宮川 敬哉
北 信	ジェイエイ・アップル(株)	樋口 昌良
北 信	JAグリーン長野	深澤 幸夫



受賞者と
農業機械専門部会関係者

(販売流通企画課)

青果物販売管理システム構築・推進委員会 プロジェクト関係者拡大全体会議を開催

J A全農長野販売流通企画課は8月25日(火)、「青果物販売管理システム構築・推進委員会 プロジェクト関係者拡大全体会議」を開催しました。この委員会は園芸関係のDXに向け、青果物販売管理システム（以下、当システム）の構築・推進を目的に、令和7年度に設置されました。今回の会議では、委員会のプロジェクトメンバーのほか、関係する会社の皆様にも出席いただいた拡大全体会議として開催しました。出席者は、座長の全農長野小林生産販売部長をはじめ、ナラサキ産業(株)、SJC(株)、(株)NTTデータ、(株)長野県協同電算、(株)全農長野計算センター、J A長野中央会、全農長野職員など、Web参加を含め33名となりました。



全体会議の様子

当システムはナラサキ産業(株)の「FRESH」を基幹システムに採用し、県内J A向けにカスタマイズを行い、他のシステムと連動することで利用範囲の拡大と利便性の向上を目指しています。今回の会議では、FRESHの開発・推進の進捗状況、他のシステムとの連動のイメージの共有、PR強化、実現の早期化を目的としました。

事務局より、1次開発機能（出荷報告・荷受）の稼働に加え、2次開発機能（出荷・分荷・輸送情報）のテスト作業が行われ運用が可能な段階に入ったこと、推進状況はJ A信州うえだが加わり5 J Aにてシステムを導入（テスト稼働を含む）していただいたことなどの説明を行いました。その後、連携する各システムの概要と連携イメージを各取引先から次のとおり説明されました。

① (株)NTTデータ 「FRESH×組合員MYページ」

生産者とJ Aをつなぐ「組合員MYページ」。このアプリをととして生産者とJ A間で様々な情報を共有できる仕組みで、計画中を含め県下9 J Aに広がっています。FRESHは、このアプリ画面からはパスワードなどの入力が必要ないため、接続時の利便性が向上します。生産者の出荷予定数や当日数量報告をアプリ上で行うことができ、ペーパーレスに寄与する仕組みとなっています。

② (株)長野県協同電算 「FRESH×園芸・花き販売精算システム」

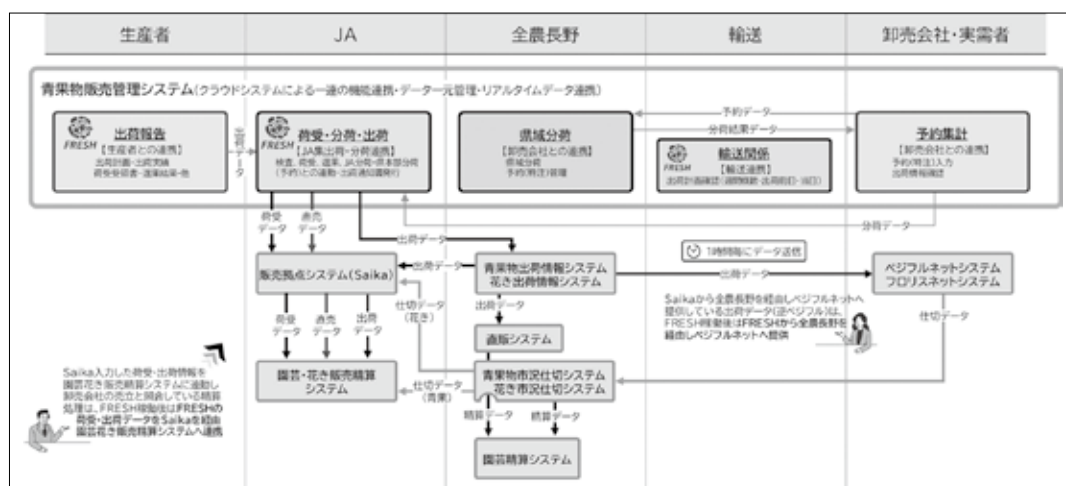
J Aは、生産者の荷受情報・出荷先（卸売会社等）の出荷・販売情報が集約・照合され、精算処理を販売拠点システム（Saika）と園芸・花き販売精算システムにて運用しています。販売精算システムの更新を踏まえ、より効率的で簡易な連携を目指します。

③ 「FRESH×ベジフルネット」

ベジフルネットは、青果卸売会社と系統産地が売立や出荷情報を共有するシステムで、双方の事務効率や販売力向上に寄与しています。FRESHと連動することで、より早く・精度の高い出荷情報が発信され、卸側ではより速い相対取引により有利販売につながる事が期待されます。

その他、他県での稼働・利用状況の報告がされ、今後の方向性について共有することができました。

販売流通企画課では、J Aでの業務効率化、省資源化、販売力強化が進むように当システムの開発と運用推進を引き続き進めてまいります。



各システムとの連動・連携の相関図

畜産酪農課

三連覇を達成 最優秀賞にJA信州うえだ久保田聖さん ～「第23回信州アルプス牛共励会」開催～

JA全農長野畜産酪農課は9月4日(金)、(株)長野県食肉公社において「第23回信州アルプス牛共励会」を開催しました。県内肉牛肥育生産者により、丹精込めて育てられた交雑牛25頭が出品され、そのうち3等級以上比率が84% (21頭) と、日頃の飼養管理技

第23回信州アルプス牛共励会 入賞者(敬称略)

賞	JA名	生産者	種別	性別
最優秀賞	信州うえだ	久保田 聖	交雑種	雌
優秀賞1席	佐久浅間	高塚 賢一	交雑種	雌
優秀賞2席	佐久浅間	永井 喜芳	交雑種	雌
優良賞(順不同)	松本ハイランド	小林 和義	交雑種	去勢
//	信州うえだ	久保田 美恵子	交雑種	雌

共励会成績

種性別	出品頭数	平均枝肉重量	平均単価
交雑種去勢	8頭	535.8kg	1,820円
交雑種雌	17頭	493.8kg	1,852円

術の高さを証明した共励会となりました。

枝肉審査では、JA信州うえだ久保田聖さんの雌牛が最優秀賞に選ばれました。この入賞牛はロース芯面積95cm²、枝肉重量をはじめ歩留り基準値や品質の高さなど総合的に評価されました。

出品された25頭の肉牛は長野県A・コープ(株)をはじめとする県内外のお取引先を通じて各店舗や飲食店で販売されました。



最優秀賞を受賞した久保田千丈さん、聖さん、美恵子さん親子

福岡販売事務所

宗像大社へ長野県産農産物を奉納 九州で旬の味覚をPR

JA長野八ヶ岳、JA川上物産、JA川上そ菜販売、JAあづみ、JA全農長野は8月22日(土)、福岡県宗像市の世界遺産・宗像大社において、長野県産農産物の認知度向上と生産販売の隆盛を祈願し、農産物の奉納を行いました。

当日は、レタスやハクサイ、リンゴの「シナノリップ」「サンつがる」、リンゴジュース、トマトジュースを奉納。その後、参拝者へのお福分けとして、各JAや宗像市関係者と共に、レタスや「サンつがる」、ジュース類の詰合せ100セットを配布し、長野県産農産物の魅力をPRしました。

お福分けでは、宗像大社の協力により巫女による配布も行われ、30分足らずで全てのセットがなくなるなど、多くの来場者の関心を集めました。受け取った参拝者からは、「新鮮なレタスやリンゴをいただけてうれしい」「長野県産のリンゴは甘くておいしい」といった声が聞かれ、好評を博しました。

さらに、福岡県内を中心に放送されるRKB毎日放送のラジオ番組による取材もあり、現在出荷最盛期を迎えている品種や今後旬を迎える農産物について紹介。九州地域の幅広い世代に向けて、長野県産農産物のおいしさと魅力を発信する機会となりました。

全農長野福岡販売事務所では、今後も九州・山口地区において、旬を迎える長野県産農産物のPR活動を積極的に展開していきます。



宗像大社での奉納



宗像大社参拝者へのお福分け

(東京販売事務所)

ＪＡながの ブドウ「ナガノパープル」 トップセールスを開催

ＪＡながのは９月３日(木)、東京青果(株)の協力のもと、「ナガノパープル」トップセールスを開催しました。会場となった東京青果(株)のイベントコーナーには、９月１日(火)に実施された「ＪＡながの『ナガノパープル』品評会」において上位入賞した１０点が飾られ、市場関係者の皆さんの目を引いていました。

トップセールスでは、代表してＪＡながの小林武郎組合長から挨拶があり、生産者の努力により立派に育ち最盛期を迎えた「ナガノパープル」のPRに加え、ＪＡながの産農産物の魅力を市場関係者に向けて力強くアピールしていただきました。

また、挨拶終了後には小林組合長・小林常務・丸山理事より「ナガノパープル」の試食品が市場関係者の皆様に直接手渡され、大変好評のうちに終了となりました。

トップセールス後のブドウの競売では、会場に展示されていた品評会上位入賞の１０点が競売にかけら



「ナガノパープル」品評会上位入賞品の展示



ＪＡながの代表者による試食品配布

れ、注目度が高い中で活発な競売が行われました。

東京販売事務所では今後も関係事業所・ＪＡと連携しながら、長野県の農産物のPRを進めて参ります。

(東京販売事務所)

東京・豊洲市場でＪＡ長野八ヶ岳・ ＪＡ洗馬合同の野菜トップセールスを開催

９月５日(土)に東京都中央卸売市場・豊洲市場において、ＪＡ長野八ヶ岳・ＪＡ洗馬合同の野菜トップセールスを初開催しました。会場となった東京シティ青果(株)フレッシュラボ前には、両ＪＡより出荷中の白菜・レタス類を中心とした野菜類を展示し、市場関係者の皆様にPRしました。

代表してＪＡ長野八ヶ岳の津金一成組合長、ＪＡ洗馬の寺澤武憲組合長に挨拶をいただきました。両組合長からはそれぞれのＪＡの野菜の魅力を市場関係者に向けて力強くアピールしていただき、併せて、消費喚起・拡大に向けた取り組み強化についても呼びかけていただきました。

お二人の挨拶の後には、ＪＡ長野八ヶ岳からは白菜１玉、ＪＡ洗馬からレタス１玉が市場関係者の皆様に配布され、大盛況のうちに終了となりました。

ＪＡ全農長野東京販売事務所は、引き続き長野県産農産物の積極的なPRに努めてまいります。



トップセールスに臨むＪＡ長野八ヶ岳とＪＡ洗馬の代表者



大好評の白菜・レタス配布

(くらし支援課)

「組織品目商品研修会」を開催



研修会の様子

長野県農協生活事業推進協議会 生活専門部会では、8月26日(水)にJA中信会館で、JAの耐久・組織担当者などを対象とした「組織品目商品研修会」を開催し25名が参加しました。当日は新規商品の提案、年末年始関連商品のの特徴や推進事例の紹介を行うとともに、既存商品についても知識習得に向けて取引先の説明が行われました。

オーダーメイドインソール、リカバリーウェア

現在、JAのイベントや研修会で行われている「オーダーメイドインソール」については、足ウラ測定無料体験により個人に合ったインソールを作成、使用することで正しい姿勢で歩くことができ、それが健康を維持するために非常に重要であると説明がありました。会場では、初回測定から成約まで行われる3段階の測定を参加者が実際に体験し、機能を納得して購入いただくことで商品への満足度が高まると紹介されました。

また、現在JAにおいて推進中の一般医療機器の「リカバリーウェア」については、秋冬期に需要が高まる長袖・長ズボンタイプが新たに加わる旨の紹介がありサンプルを確認しました。今後、JAでは推進チラシを活用しPRを強化してまいります。

ソーラーシステム、節電サーモ

ソーラーシステム、太陽光発電設備および蓄電池の概要についての説明が行われ、併せて再生可能エネルギーを活用した太陽熱給湯・発電システムの仕組みや特徴、エネルギーコスト削減効果についても紹介されました。

節電サーモについては、空調機器の運転効率向上による電力使用量の削減効果や、導入事例を交えながら光熱費抑制につながる仕組みについて説明が行われました。近年の電気料金高騰や災害時の電力確保への対応策としては、太陽光発電設備と蓄電池を組み合わせた活用方法や導入メリットについても案内がありました。

年末年始関連商品

年末年始関連商品としては、年末の人気メニュー食材の「信州プレミアム牛肉(冷凍品)」や「たらばがに(冷凍品)」、年始の食卓を彩る「重詰めおせち」について提案しました。JAでも取り組みしやすいよう全て配送業者による直送としております。

参加者からは「商品の知識を深める機会となった」「組合員への提案方法のヒントがあった。今後イベント等で積極的に提案の機会を増やしたい」「直送品であれば取り組みしたい」といった感想をいただきました。引き続き、くらし支援課では組合員のニーズに応じた商品提案を進めてまいります。

オーダーメイドインソール

リカバリーウェア

果実花き課

ファミリーマートで信州産和ナシを使ったアイスバーを発売

長野県と包括連携協定を締結している㈱ファミリーマートから、信州産和ナシを使用したアイスバー「とろける食感 ギゅっと梨」が発売されました。この商品は、同社が展開する「産地と、コンビニに、」活動の一環で、長野県150周年を記念して数量限定で販売されたもので、JA全農長野が原料となる果汁を供給しています。

発売日の8月25日(火)に長野県庁で行われた記者会見で、㈱ファミリーマート北陸・長野リージョンの大宮秀樹副部長が「長野県150周年ということで全国発売します。全国に長野の梨の良さをどんどんアピールしていきたい」とPRしました。

同商品は2024年から毎年この時期に発売しています。長野県産ナシの果汁を60%も使用し、濃厚な果汁層ととろける食感に仕上げた層、1本で異なる味わいを堪能できる、ナシの甘みが特徴的なフルーツバーです。

全農長野果実花き課は、生果のみならず加工品でも長野県産果実の魅力を発信できるよう努めてまいります。(=表紙右上)



長野県庁での記者会見（左から、JA全農長野 根津彰寛副部長、㈱ファミリーマート大宮副部長、長野県産業労働部 田中英児営業局長）



ナシの香りもしっかり感じられるアイスバー

総務広報課

公式SNSを拡充
X、Instagram、noteで情報発信を強化

JA全農長野は9月から、公式SNSとしてX、Instagram、noteの運用を開始しました。県産農畜産物の魅力や本会の取り組みを広く発信し、認知度向上や消費拡大、さらには採用活動の支援につなげていきます。

Xはこれまで運用していた「グリーンレーダー公式X」のアカウント名を変更し、引き続き活用します。Instagram、とnoteについては新たに開設し、それぞれの特性を生かした情報発信を行います。

また、本会が運営する他のSNSとの連携を図ることで、より多くの方へ情報を届けるとともに、発信効果の向上を目指します。

県産農畜産物の旬の話題やイベント情報、生産者の取り組みなどを随時発信していきますので、ぜひ各アカウントをフォローしていただき、全農長野の情報をご覧ください。



JA全農長野の事業現況

令和8年度8月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		0	—	0
野菜種苗センター		114	96	96
生産振興部計		114	96	95
米	穀	10,854	87	151
果実花き		16,046	100	121
野菜きのこ		35,666	107	109
営業		6,461	96	105
生産販売部計		69,028	101	116
農業資材		5,739	119	120
肥料農薬		3,597	107	106
農業機械		3,534	116	114
施設住宅		1,327	145	88
生産購買部計		14,197	117	111
畜産酪農		14,703	114	112
三岳牧場		22	22	20
S P F繁殖センター		124	93	106
八ヶ岳牧場		129	92	98
畜産酪農部計		14,978	113	111
燃料・ホームエネルギー		9,879	104	102
S S協同経営		3,001	106	92
くらし		2,968	98	97
くらし支援部計		15,849	104	99
長野県本部計		114,165	104	112

(内部販売高含む)

10月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演予定
10/28(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	野菜きのこ課

グリーンレーダー
WEB版はこちら



今月のおすすめレシピ きのこ牛肉の甘辛混ぜご飯



【材料(2~3人分)】

えのきたけ……………1株
ぶなしめじ……………1/2株
エリンギ……………中1本
牛肉小間切れ…………80g
生姜(千切り) ……5g
唐辛子(輪切り) ……少々
ごま油……………大さじ1
ご飯……………400g
万能ねぎ(小口切り)
……………適量

A

醤油・みりん
……………各大さじ2
酒……………大さじ1
砂糖……………小さじ2

【作り方】

- ①ぶなしめじ・エリンギは食べやすい大きさに、えのきたけは2cmの長さに切る。
- ②ごま油で生姜、唐辛子、きのこをしっかりと炒めて、牛肉をさっと炒めたらAを加えて汁気がなくなるまで煮詰める。
- ③ご飯に②を加えて混ぜ、お好みで万能ねぎをのせる。



ポイント

えのきたけ：ビタミンB1の含有量はきのこの中でもトップクラス！
また、長野県JA産えのきたけは、きのこで全国初の機能性表示食品(GABA)です。

編集後記

日暮れが早まり、夜が長くなってきました。秋の深まりとともに、農産物は実りの時期を迎えています。私の畑では、ダイコンを11月半ばの収穫に向けて育てていますが、連作障害の対応として、昨年とは違う場所になりました。また、昨年の収穫期は急に寒くなったことを思い出し、少し早めの8月末に種を蒔きました。アブラムシやヨトウムシなどの害虫がつきやすいため、防虫ネットでトンネルがけをしています。本葉が4~5枚になったところで形の悪いものや成長が遅いものを間引き、その後近くにJA資材店舗で購入した肥料を施しました。昨年は収穫を遅らせたところ「す」が入ってしまっただけで、今年は採り遅れに気を付けたいと思います。

畑の端には樹木を植えてありますが、その根元に群生しているミョウガを収穫しました。この時期のものは一般的に秋ミョウガと言われ、ふっくらと丸みがあります。夏に収穫した緑がかったものと違って、赤紫色が濃く香りも強くなっています。季節や日照によって、味わいも変化することに、面白みと魅力を感じます。ミョウガは鮮度が落ちやすく常温だとしなびてしまうので、長持ちさせるため酢漬けにしています。甘酢に漬けた冷感すると、色が鮮やかで風味が長持ちします。

これからの時期は自然の移ろいを感じながら、香り豊かな旬の味を楽しみたいものです。



秋には秋の

JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

